



屋根を吹き飛ばされた家（甲府市・昭和34年） 山梨大学前の惨状。屋根は吹き飛ばされ、壁は打ち破られており、暴風雨の猛烈さが伝わってくる。台風のスビードが速すぎて防災対策が間に合わなかったこともあり、未曾有の大災害となった。



倒れた電柱（甲府市・昭和34年） 死者66人、行方不明24人、家屋全壊1659戸、半壊4574戸と大きな被害を残した台風7号。猛烈な暴風雨をともなった台風は富士川に沿って北上し、甲府盆地西部を非常に速い速度で通過していった。倒れた電柱の下を男性がバイクを押し、かいくぐるように通っている。市内のいたるところで、こうした光景が見られた。



なぎ倒された大木（甲府市・昭和34年） 国母小学校では、校庭の大木が強風で根こそぎ倒された。校庭に横たわる大木が風の強さを物語っている。屋根の瓦も吹き飛ばされている。



崩壊した家（甲府市・昭和34年） この家も台風によって屋根や壁を吹き飛ばされた。台風が去ったあと、家の人はただ呆然と立ち尽くすしかなかった。



水びたしの街（甲府市・昭和34年） 7号台風一過の下一条町のようす。河川の氾濫であふれ出た水で道路は水浸しとなった。長靴を履いた男性の横を車が通っていく。



大雨被害（甲府市・昭和41年）
昭和41年6月の朝日町の様子。
梅雨による大雨で道路が水浸しになっている。道路の端では、新聞配達の人が自転車を停めている。



倒壊した「ボロ電」の車庫（甲府市・昭和34年） 車庫の屋根がべしゃんこになっている。手前の建物も壁が残った程度。左端に男性がひとり立っているが、この光景に呆然としているようすだ。

倒れかかった「ボロ電」（甲府市・昭和34年） 屋根や壁が崩れ落ち、「ボロ電」がその下敷きになり、車体も大きく傾いている。これら台風7号の復旧に取りかかっている最中、さらに台風15号による被害を受けた。再開に向けた復旧経費は膨大で、「ボロ電」の経営を圧迫していった。



米アイオワ州から災害見舞い団（甲府市・昭和35年） 昭和34年は山梨県にとって未曾有の災害年だった。8月に台風7号、9月に台風15号（伊勢湾台風）が立て続けに襲来し、人的・物的に大きな被害を受けた。アメリカの姉妹州アイオワ州からも支援があり、同35年にはアイオワ豚35頭、飼料用トウモロコシなどが贈られてきた。写真は見舞い団が県庁に到着した際に県庁玄関口で撮影されたセレモニーのひとつコマ。



水浸しの平和通り（甲府市・昭和41年） 昭和41年7月の集中豪雨で朝日町周辺は大被害を受けた。濁流は平和通りにも流れ込み、一面水浸しとなった。

「全員無事です」の貼り紙（甲府市・昭和41年） 民家の壁には、安否を確かめる人たちのため、避難先や全員無事であることを知らせる紙が貼られていた。



瓦礫の山のなかに呆然とたたずむ女性（甲府市・昭和41年） 突然流れ込んできた濁流で家具や生活用具などは泥に浸かり、人々はただ呆然とたたずむしかなかった。濁流の過ぎ去ったあとの通りには、泥だらけになった障子戸や風呂桶などが雑然と積み重ねられた。死者1人、床上浸水1492棟、床下浸水1万3036棟の被害であった。



打ちつけられた自転車（甲府市・昭和41年） 暴れまくった濁流のすごさを物語る光景。軽乗用車が浮き、玄関先に打ちつけられるほどの激しさであった。被害者は何もできず、非難するだけで精一杯だった。



泥の海と化した横沢通り（甲府市・昭和41年） 甲府市の北部山岳地帯に局地的な豪雨があり、山間地の各所で山崩れが起きた。相川の堤防が数か所で決壊したほか、相川三の橋などが流された。横沢橋付近では流木などがたまり、濁流が市街地に流れ込んだ。写真は一夜明けた横沢通りの惨状。被害総額は約42億円にも及んだ。

第3章

昭和四十年代後半以降の風景

豊かさの時代

昭和四十年年代以降のモータリゼーションの進展は目を見張るものがある。それまで一部の金持者のものだった「マイカー」が、ほとんどの家庭に普及する。同五十四年（一九七九）県下の自動車保有率は全国四位。甲府駅東の舞鶴橋橋脚・甲府バイパス・愛宕山トンネル（金谷）バイパス、中央自動車道・新甲府通りも順次開通し、交通が便利になっていった。それにとともに、人や物資の移動も多くなっていった。

また、次々と公共施設が整えられた時期でもある。昭和四十一年、民間ではあるが、北口に丹下健三設計の山梨文化会館がオープンした。次いで、県立図書館・県立中央病院・県立美術館・県立考古博物館などが続々と完成した。朝霧の潤滑所は移転し、広大な遊地は翠美小学校・豊立南小学校・男女共学高七ヶ岡などに生まれ変わった。荒川ダムや国営工業団地といった大規模な開発事業が、あたかも急ぎの象徴のごとく行われたのである。同四十年代にはしばしば水害が襲ったが、その後は河川改修が進み、水害はしだいに見られなくなった。そして、同六十一年のかいと団地にあわせて小瀬スギノ公園が造られ、甲府駅西はどろとなった。

家庭にはシステムキッチンやテレビが普及し、電子レンジも登場した。学校では祝賀会やクリスマス会の牛乳に変わり、米飯給食も導入された。テレビのチャンネルは、それまで100H（1）・3（教育）・5（山梨放送）だけだったが、11（テレビ山梨）が加わった。高齢者の家庭での日誌書きは普及が多かったが、社年以下はすっかり目録時代となった。妻を離れ、農家は減り、果樹は果樹で取って代わられた。スーパーマーケットが各地に誕生し、多くの主婦が列をなした。一方で、アパートは築古付きが主流になり、鉄道の利用率はだいに減り、マンションが少なくなると同時に、昔ながらの旅館旅館は姿を消していった。（石川 恵）



オリオン通り（甲府市・昭和47年）



住民総出で復旧作業（甲府市・昭和41年） 復旧作業には自衛隊や消防団などが出動した。住民もスコップやバケツを持ち、流れ込んだ土砂の撤去作業に汗を流した。



濁流が渦巻く滝戸川（甲府市 中道町 ・昭和52年）大雨で氾濫する滝戸川。雨は8月16日夜から降り始めた。消防員だろうか、雨合羽姿で氾濫する滝戸川を警戒している。緊迫した雰囲気伝わってくる。

台風18号で冠水した上曽根地区（甲府 中道町 ・昭和57年）昭和57年9月、台風18号の大雨によって河川が氾濫し、上曽根地区の田畑が冠水した。